

# 【目的】

- 横浜市南区薬剤師会と横浜市立大学附属市民総合医療センター（以下、センター病院）は、昨年の本学術大会で長期実務実習受入に関して、会員の意識調査結果を報告した。この結果を踏まえ、昨年度、3回にわたり「長期実務実習受入への課題」というテーマで連携研修会を行った（以下、研修会という）。
- 昨年の調査結果より薬局開設者が薬剤師か否かで実習受入に対する意識や課題に違いが見られたことから、今回の調査では開設者が非薬剤師の場合には管理薬剤師に対しても同様の調査を行うこととした。
- 研修会開催により薬剤師会に所属する薬局開設者の意識がどのように変化したかを調査した。

南の風はあたたかい

## 【方法】

- 調査対象：横浜市南区薬剤師会に所属する保険薬局66施設の開設者と開設者が非管理薬剤師の37施設においては管理薬剤師も調査対象とした。
- 調査方法：アンケート調査 平成20年6月実施

## 【結果1】

- 回答があったのは開設者が36名(54.5%)、開設者が非管理薬剤師の場合の管理薬剤師の回答は30名(81.1%)だった。



## 【結果2-1】

- 昨年度行った実務実習受入に関する研修会への参加は開設者6名、管理薬剤師6名であった。そのうち、参加によって開設者4名および管理薬剤師2名が意識が変化したと答えた。

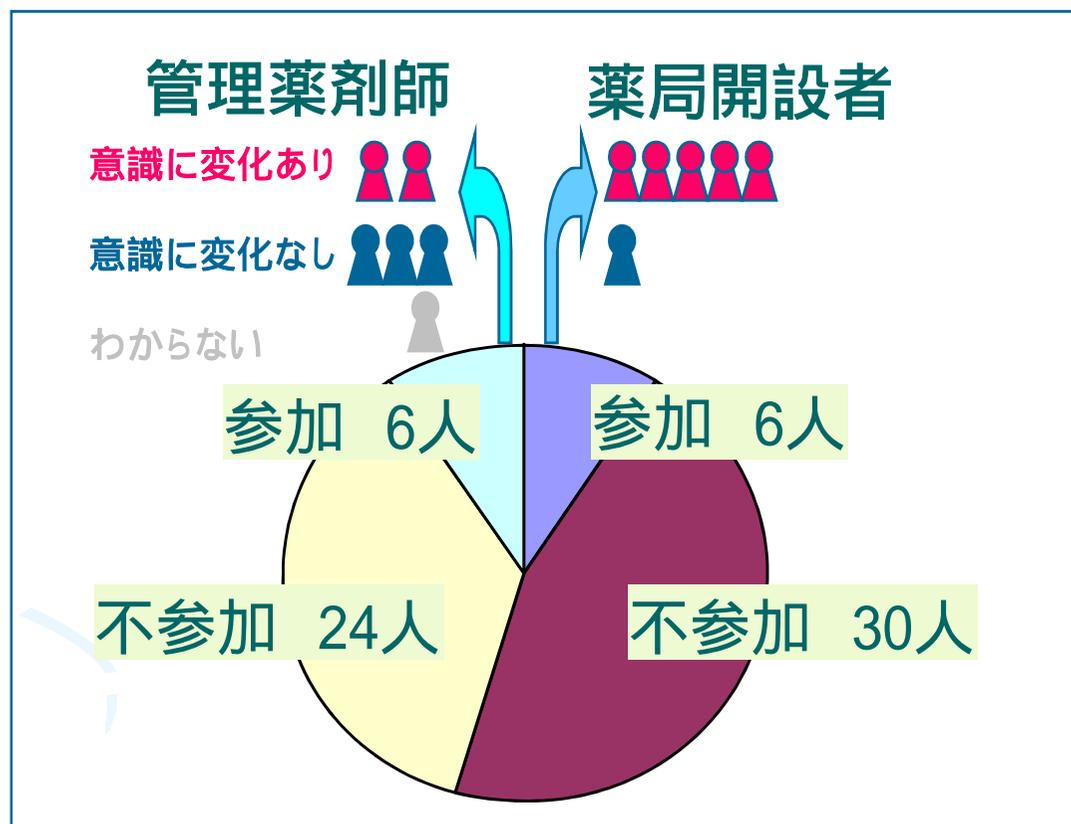


図1-1. 研修会への参加人数と意識が変化した人の数

## 【結果2-2】

- 比較的規模の大きな薬局の開設者および管理薬剤師が研修会に参加した割合は多いことがわかった。

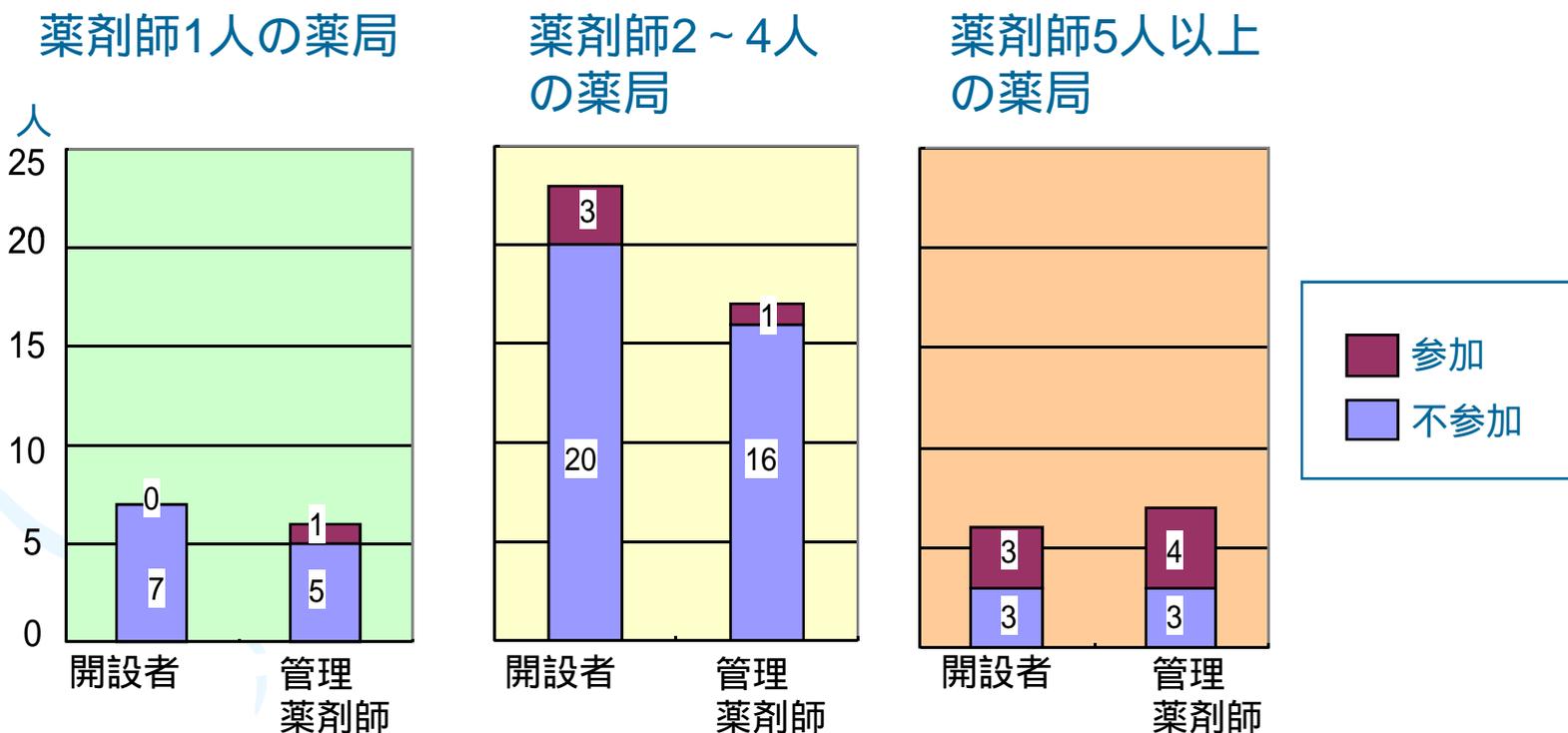


図1-2. 薬局の規模による研修会参加人数の違い

# 【結果 2-3】

- 可能と回答した薬局は、薬剤師の人数が5人以上で、全て、これまでに実習の受入実績がある薬局であった。
- 管理薬剤師の回答では、開設者が受入可能と回答している薬局に所属する管理薬剤師4人のみが受入可能と回答した。

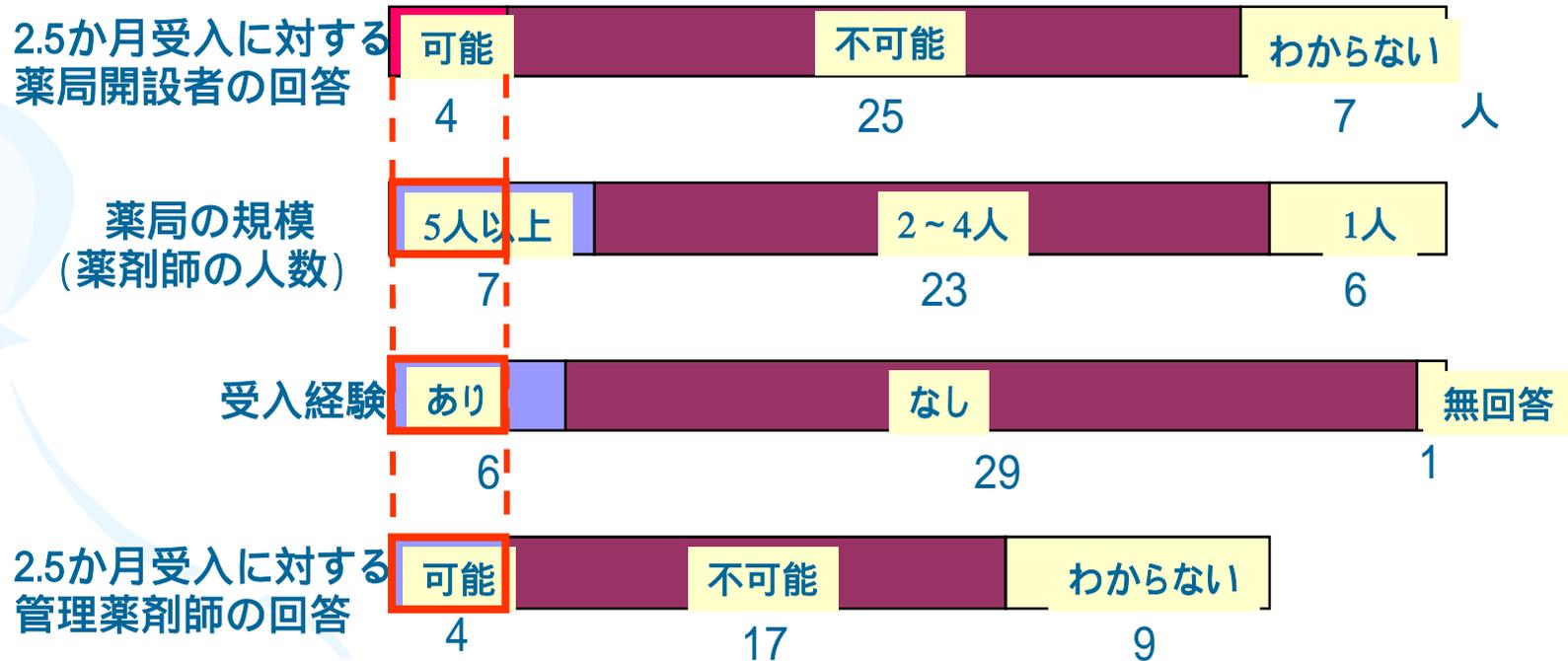


図2. 現時点で2.5か月の実習を受入可能とする薬局の規模およびこれまでの実績の有無。

□内は開設者が2.5ヶ月受入を可能とした薬局による回答

## 【結果3】

- 2.5か月実習受入は不可能、わからないと回答した施設の開設者に受入可能な期間をたずねたところ、期間によらず不可能が52%であった。
- その他の回答としては、実務実習認定薬剤師がいないため、研修項目の分担がないと期間によらず難しい、などの意見が上がっていた。

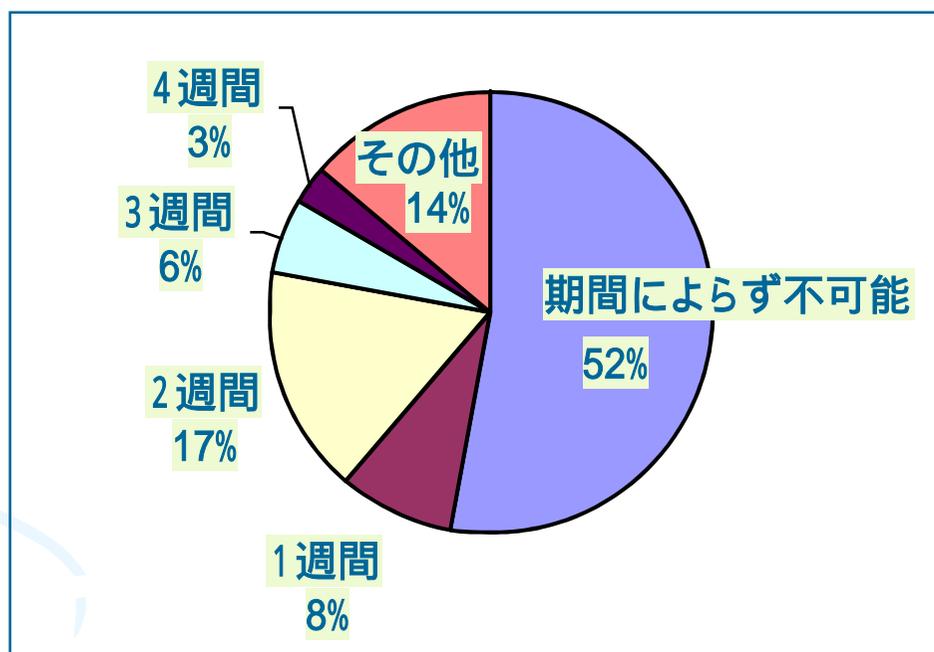


図3 . 2.5か月の受け入れを不可能とする開設者が受入可能とする期間

# 【結果4】

- 受け入れに必要な項目として指導マニュアル、スペース、指導者の人員と教育、研修項目の分担が数多く上げられた。

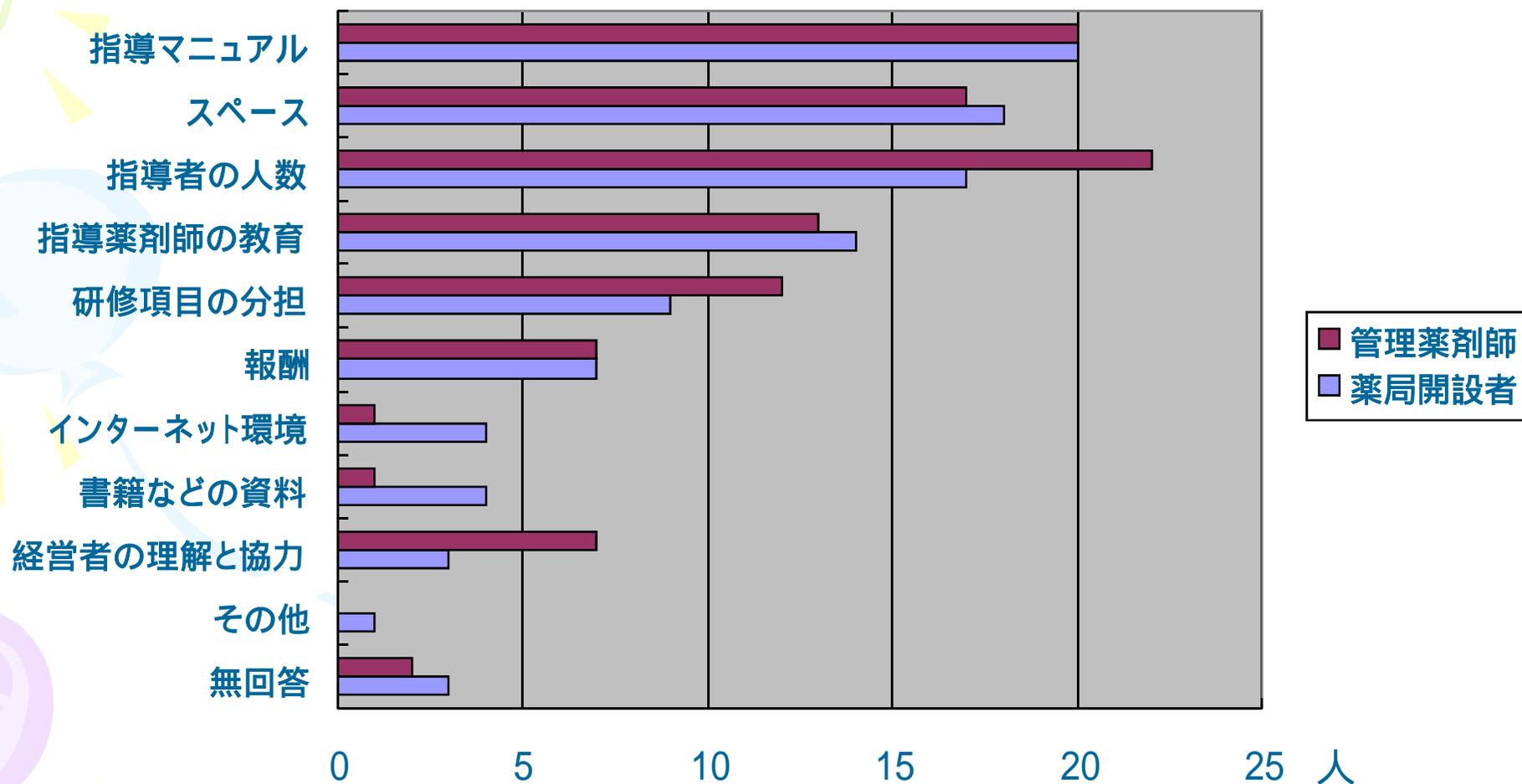


図4. 受入に必要なとされる項目(複数回答可)

## 【結果5】

- 薬剤師会に今後期待することとしては以下があげられた。
  1. 指導薬剤師の育成と人員の増強
  2. グループ実習制度の確立
  3. 長期実務実習に関する研修会の充実
  4. 指導薬剤師認定のワークショップの開催
  5. 受入側の態勢整備
  6. 受け入れに対する薬剤師会の指導的役割
  7. 地域で連携、合同で出来る実習受入薬局の調整

南の風はあたたかい

## 【考察1】

- 研修会に参加した会員は意識の変化がみられたが、テーマで比較すると、疾病に比べ実務実習受入のための研修会への参加人数自体が少なく関心の低さが見られた。
- 参加者の人数から考えると、開設者や管理薬剤師の研修会への参加が少く、研修会のみによつての意識変化は難しいと考えられる。

## 【考察2】

- 開設者が受け入れを不可能としている薬局では、管理薬剤師も実習受入について不可能と答えていることから、両者の意識改革と協力が必要であることがわかった。
- 受入期間が短ければ受入可能と回答している薬局もあることから、分担により一薬局ごとの負担を軽減することが望ましい。

## 【結論1】

- 「受入期間によっては受け入れ可能」としている薬局は少なくないが、実際には期間の短縮は不可能である。モデル・カリキュラムより、薬局実習は調剤、窓口業務、薬歴記載など基本業務が大半であることを認識する必要がある。
- 専門性の高い分野に関しては他薬局の協力を得ることや、地域単位で学生を集めて研修会を開催することで受入薬局の負担を軽くしていくことができるのではないかと考えられる。



## 【結論2】

- 実務実習受入は、薬剤師にとって責務である。より多くの薬局が受け入れを可能とする意識変化をもたらすためには、早急に地域内のカリキュラムを作成する必要があると考えられる。
- 南区薬剤師会として具体的な実習の受入例を示すことで受入可能とする薬局の数を増やし、併せてより充実した内容の研修会を計画して、受入準備を整えて行くよう努めたい。
- 横浜市南区薬剤師会はセンター病院との連携を通して、会員薬局への実習受入れのさらなる啓発に今後も努めていきたい。

